

新連載

サックス レコーディング マスター

簡単!
Sax
recording
master

企画協力：ティアック株式会社

第1回 Guest：石川周之介

このコーナーでは、第一線で活躍中のサックスプレイヤーがどのようにレコーダーを活用しているかをインタビュー、そして実際にレコーダーで録った音源をオンラインで公開していきます！ 記念すべき第1回のゲストは自身のバンドUit Nederland (アウトネーデルランド)などで活躍する新世代のジャズプレイヤー、石川周之介さんが登場です！



石川周之介さんのレコーダー活用術！

— レコーダーは普段使っていますか？

はい、使っています。リハーサルや、自分の音をチェックするために使っています。ハンディレコーダーはわざわざ音源を加工しなくても良い音質で録音ができるのがいいですね。録音を後から聴けるのは単純に嬉しいですし、逆にこんなにできないのか、ということもわかります。つまりレコーダーはしっかりと現実を突きつけてくれる(笑)。スポーツ選手が自分のフォームをビデオで確認するように、客観的に自分と向き合うことは上達するためにとっても重要だと思います。自宅での録音ではパソコンとコンデンサーマイクを使っていますが、サックスやギターだけで録音するときはハンディレコーダーを使うことが多いです。レコーダーの設定も簡単ですし、思い立ったら即使えるので重宝しています。

— 録音するときには、どのような工夫をしていますか？

ライブではライン入力だけでなく、ハンディレコーダーでエアーを通して音も録音するようにしています。PA (Public Address ≪音響設

備≫の略) さんがいる位置はステージ全体を聞くには最適な場所であることが多いので、PA卓の近くで録音させていただくこともあります。また、そこで録音するとPAさんがどのように音を作ってくれているのか参考になります。PAさんとは長いおつきあいをすることが多いので、後々役に立つんです。

家で録音するときもそうですが、マイクをどこにセッティングするかで録れる音は大きく変化します。カメラで富士山を撮ると、意外に小さいと感じたことが皆さんもあるかと思います。人は主観的に注意したものにズームインするんですね。耳も同じで、意識せずにある音を注意してしまおうという感覚が働くので、レコーダーを通して聴くことでその感覚がフラットになるというか、俯瞰して聴くことができるのでとても助かります。

— レコーダーのユニークな活用法があれば教えてください。

音楽プレーヤーとしても使用しています。録音しながらすぐに音源を確認できるので便利です。再生される音質も、通常のポータブルプレーヤーより幅広い音質で楽しめるのが魅力的ですよ。

TASCAM DR-44WLを使って録音に挑戦！



いい音で録れてますね！
近くで録るとダイレクトかつ
タイトな感じで、パリッと録れています。
離して録音するとマイルドな音質に
なります。客席で聞こえる音に
近くなっていると思います。

さらには
DR-44WLのMTR機能を使い
重ね録音にも挑戦！



レコーダーだけでこま
でできる！
SAXオンラインにて、取
材時に録音した音源を公
開します！ お楽しみに！



今回使用した機種は
「TASCAM DR-44WL」
詳細はこちらから！



Profile 石川周之介 Shimosuke Ishikawa

サックス/フルート/ボサノバギター奏者。明治大学ビッグサウンズソサエティー出身。2000年よりアメリカニューオーリンズ大学にて留学後、拠点をオランダに移しロッテルダム音楽院(Codarts)で5年間学び、演奏活動を行なう。世界最大規模のノースシージャズフェスティバル出演やオランダ王室演奏会での演奏など幅広く活動。現在、オランダ発のジャズ「Uit Nederland (アウトネーデルランド)」をはじめ都内を中心に活動中。中塚武、青木カレンはじめ様々なアーティストのサポートも行なっている。